

# 豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価票番号 40

## 1 施策の概要

1-1 施策の名称	青少年健全育成			基本施策コード	4 1 5
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	評価票作成者 生涯学習課長 近藤雅彦
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			
	項	生涯学習の推進			
1-4 施策の目的	豊かな人間性・社会性を持った青少年を育成する。				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	B	
総合評価	A	

施策評価の判定基準  
 A : 施策の目的を効果的に達成しているため継続する  
 B : 施策推進の実施手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名	前期(平成18年度~平成22年度)			全期間(平成23年度~平成27年度)			指標の定義
		目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	
	青少年の健全育成に対する満足度	75.0(%)	71.2(%)	94.9(%)	80.0(%)			市民全般から見た青少年健全育成の地域活動と青少年が地域で健全な生活を送っていることを表す指標

## 2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	家族の閉鎖性は、持続し、家庭教育力の低下が予想される。	家庭教育学級を軸とし、周囲に良い影響を与えながら全体の底上げをする。	青少年の健全育成は、行政と市民の協力のもと、日々の積み重ねである。
平成19年度	家庭教育力の向上について、行政の支援が教育基本法に明文化された。	文化系ジュニアクラブ、家庭教育学級及び青少年健全育成地区活動連絡会の活動を支援してゆく。	家庭教育市民大会での沓掛中学校の吹奏楽演奏が好評であった。
平成20年度	より良い社会人、職業人になっていくためのキャリア教育の充実が重要である。	文化系ジュニアクラブ活動において、「子ども理科実験教室」などの単発事業の充実を図っていく。	青少年健全育成地区活動連絡会において、地域の役割について議論を深めた。
平成21年度	青少年の健全育成を、行政の支援のもと、家庭・学校・地域の連携で推進する。	引き続き、文化系ジュニアクラブ活動において、「子ども理科実験教室」などの単発事業の充実を図っていく。	文化系ジュニアクラブのカラガードクラブが、長年の活動の積み重ねにより、上海万国博覧会に豊明市の代表として出演する。
平成22年度	地域における次世代の担い手を育てることが、青少年の健全育成事業を行う目的であることの認識が必要である。文化系ジュニアクラブ、家庭教育学級及び青少年健全育成地区活動連絡会の活動が互いに影響しあい、青少年育成の環境を築いていく。青少年健全育成地区活動連絡会における、具体的な活動方針が地域の行事などに反映され、徐々に中学生の参加が増えてきた。 【評価がBの理由】青少年健全育成については、市内27区における各青少年健全育成推進委員会が組織され、最近では中学生を積極的に行事に参加させるなど、地域の次世代育成に目標を定めて活動が続いている。それなりに実績は評価できるが、目に見える効果を上げることは非常に難しい。施策としては現状を踏まえ新たな手法を考えていく必要がある。 【改善方向の指示】家庭教育推進事業については、順調に学級生数が伸びており卒業生の活用についても積極的な協力が得られている。家庭教育推進市民大会の参加者数や地域活動への中学生参加についても、一時的な減少が見られるものの、微増傾向にあると思われる。更なる施策の展開について検討の必要はあるが、中間評価としてはA評価が適当と考えられる。		
平成23年度	地区青少年健全育成推進委員会の活動としては、前年度の方向と変わらないが、12月に実施した地区の中学生を対象とした地域行事に対する意識調査により、中学生に対する大人の認識が少し変わったように見受けられる。各地区の23年度実績を見ると中学生の参加人数が増えてきたことから、この傾向が確認できる。新たな手法の手掛かりとしたいが、さらに研究が必要と考えている。		
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

